

えんちょう通信

No.115

令和5年12月22日
福島市立清水幼稚園
発行者 佐藤一男

地域のみなさまに大事にさせていただいて

今年も地域の皆様に大変お世話になりました。

12月1日(金)、「餅つき会」が開かれました。保護者のボランティアの方が10名もお手伝いに来てくださいました。そしていつもお世話になっている大内直さんには、もち米や鶏肉、ゴボウなどの材料、それから大きなガスバーナーとガスボンベ、蒸し器、臼と杵、そして子どもたちが使う千本杵まで用意していただきました。

餅つきの指導はもちろん、お雑煮の汁の味付けも教えていただきました。そしておいしいお雑煮ときな粉餅をお腹一杯いただきました。とても幸せな時間を過ごしました。

また13日(水)の「お楽しみ誕生会」には、サンタクロースがやってきました。シャン シャン シャン・・・と鈴の音が聞こえてきて、大きな袋を担いだサンタクロースが現れると、子どもたちはもう大喜びです。「何に乗って来たんですか?」「なんでサンタさんの服は赤いんですか?」など、子どもたちは次々に質問していました。サンタさんから、すごろく、パズル、絵合わせカード、そして恐竜の図鑑と絵本を頂きました。子どもたちには内緒ですが、こんなふうに毎年、二文字屋昇さんがサンタになって、プレゼントを届けてくれるのです。

そして19日(火)にはお正月の縁起物の「門松」を親子で作りました。松、竹、梅の枝にゆずり葉、それからビニールの縄、畳表、そして砂まで大内直さんがすべて用意してくださいました。

門松を飾るような習慣もだんだんなくなっているという聞いています。まして自分の手で作るという経験はなかなかできないのではないのでしょうか。大内さんのおかげで、気持ちを新たにしてお正月を迎えることができます。

さらにその次の日、12月20日(水)には「交通安全教室」が行われました。清水地区の交通安全母の会のみなさんが来て、『わたしは必ず止まります』の合言葉をいつものように丁寧に教えてくださいました。子どもたちが飽きないように毎回、趣向を変えて

「命の大切さ」を教えてくださいます。大事なことは、こうやって繰り返し、繰り返し丁寧に教えていかなければならないのだなと思いました。最後に、光るカエルのキーホルダーとお菓子をプレゼントしていただきました。

子どもたちは、こういうふうに地域のみなさまに大事にさせていただいて、「人っていいな、信頼できるんだな・・・。」と思うようになっていくのだと思います。

そういう人への信頼が、子どもたちの「学び」の基盤になっていくのだと思います。

